



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2025 年 1 月 3 日 (R5 年度のチャレンジプラン)
プラン名	わくわく防災プロジェクト KANI
実践団体名	わくわく防災ジュニアクラブ岐阜可児
代表者名	大前雅紀
電話番号	0574-56-0208
メールアドレス	mskh1192@gmail.com
実践団体の説明	「未来の防災人材育成」へ向けて、中学校部活動地域化で団体を設立した。『たのしくカラフル、わくわくツナガル』で、「もしもといつも」に備えた顔の見える関係づくりに取り組む。地域の人と交流、過去災害フィールドワークを実施するなど、防災活動を市内全域を対象に取り組む。市文化スポーツ課、防災安全課、教育委員会、防災教育チャレンジプランの支援を受け、活動を推進している。 問合せ Email : wakubosai.kani2024@gmail.com
所属メンバー	代表 大前雅紀 (岐阜県可児市立西可児中学校) 会員 8 名、一般サポーター 2 名
活動の本拠地	岐阜県可児市内全域
活動開始時期・結成時期	令和 5 年 6 月会員募集 7 月活動開始
過去の活動履歴・受賞歴	なし

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA、13. 個人
プランの運営側の人数 (実数)	約 2 人
プランの活動地域	岐阜県可児市。
プランの防災教育の対象者	6. 中学生 12. 地域住民
防災教育の対象者の人数 (実数)	約 8 人
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害 5. 火山噴火 6. 雪氷災害 8. 火災 9. 災害全般



プランの活動目的	1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 9. 防災に関する技術の習得 10. その他（部活動地域移行の受け皿 市内学校と地域連携）
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い 9. その他（人間関係力、ボランティア対応力）
プランの活動形態	2. 講習会・学習会・ワークショップ 17. その他（土日の部活動、地域イベント主催、支援）
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA 4. 町会・自治会 5. 自主防災組織 8. 国・地方公共団体 9. 公共施設 10. 企業・産業関係 11. ボランティア 12. NPO 15. 学術組織 16. 個人 17. その他（防災教育チャレンジプラン参加団体）
実践にかかった金額	<div>円</div> 10 万円未満・30 万円未満

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4 月	行政と調整折衝		
5 月	行政と調整依頼		
6 月	行政と調整	会員募集 市内全中学校へチラシ配布	



7 月	行政と調整	プロジェクト①活動準備と 振り返り、②の見通し	わくわく防災プロジェクト①
8 月	行政と調整	プロジェクト②活動準備と 振り返り、③の見通し	わくわく防災プロジェクト②
9 月	行政と調整	プロジェクト③活動準備と 振り返り、④の見通し	わくわく防災プロジェクト③
10 月	行政と調整 来年度へのプラン立案	プロジェクト④活動準備と 振り返り、⑤の見通し	わくわく防災プロジェクト④
11 月	他団体と調整	プロジェクト⑤活動準備と 振り返り、⑥の見通し	わくわく防災プロジェクト⑤
12 月	他団体と調整 プラン修正と調整	プロジェクト⑥活動準備と 振り返り、⑦の見通し	わくわく防災プロジェクト⑥
1 月	プラン修正と調整	プロジェクト⑦活動準備と 振り返り、⑧の見通し	わくわく防災プロジェクト⑦
2 月	来年度の活動計画づくり	プロジェクト⑧活動準備と 振り返り、来年度の見通し	わくわく防災プロジェクト⑧
3 月			



実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>可児市のジュニアの防災人材育成を図ることを目的にしています。中学生が、災害時に自分の命と大切な人・周囲の人の命を守れる行動がとれるように「知識・もの・こころ」で防災の学びを深める。中学校の枠を超えた、市の総合型クラブ活動（可児市 UNIC）を土台に、ネットワークをつくる。防災・減災についての学びと活動を発信していくことで、地域の防災力向上に貢献する。</p>
プランの「チャレンジ」の結果	<p>市の「未来の防災人材育成」へ向けて、中学校部活動地域化で団体を設立し、活動。その活動を通して、生徒たちが防災について学び、地域とつながりをもてた。また、地域も地元の中学生とつながりをもち、一緒に学べたことが成果である。</p> <p>生徒にとって、土日の新たな活動として、「防災」を選び、自ら主体的に学ぶことができた。その場づくりを提供できたことが新しいチャレンジとなった。</p> <p>『たのしくカラフル、わくわくツナガル』で、「もしもといつも」に備えた顔の見える関係づくりに取り組めた。地域の人と交流、過去災害フィールドワークを実施するなど、防災活動を市内全域を対象に取り組めた。企画運営側としては、新たに市文化スポーツ課、防災安全課、教育委員会地域や県の諸団体との連携とつながりができ、活動を推進できた。</p>
実践内容・方法・成果	<p>団体の設立から、具体的な活動を以下に記します。</p> <p>0 団体の立ち上げ、活動プランづくり、会員募集</p> <p>R5年 1月・・・防災ジュニアクラブ活動を文化スポーツ課に相談。</p> <p>R5年 12月・・・防災ジュニアクラブ立ち上げを企画立案。</p>



R6年 1月・・・市文化スポーツ課に提案。 教育委員会と連携。
部活動地域移行のモデル推進事業の認可。

R6年 4月・・・会員募集を6月に変更。

R6年 5月・・・文化スポーツ課と打合せ。防災安全課に協力依頼。
活動内容の見通し。 募集チラシ作成 (右)。

R6年 6月・・・チラシを市内全中学生に配布。日程、場所の調整。

R6年 7月・・・第1回開催の活動準備。会員
への連絡。

会員7名、一般サポーター2名、運営2名。

Instagramで情報発信。8月会員1名加
入。



1 わくわく防災プロジェクト① 7月

【広見地区センター】 (後援 市文化スポーツ課)

プロジェクト発足、防災ゲーム、段ボールベッド・簡易ト
イレ設営

○初めて顔を合わせ活動スタート。ゲームでの意見交流、
備蓄品の設営から学ぶ。



2 わくわく防災プロジェクト② 8月

【広見地区センター】 (講師 市防災安全課)

私の防災チャレンジ、教育長激励メッセージ、非常食、ラ
ンタンづくり、カードゲーム



〇市の食料備蓄品、非常食体験、災害を想定したランタンづくりに取り組み学んだ。



3 わくわく防災プロジェクト③ 9月

(講師 大前・可児市防災の会・市防災安全課等)

イベント「可児市防災キャンプ in 可児市」

【B&G 海洋センター】 会員がアシスタントで参加
市主催小4～6年生向け防災イベント 防災ランタンづくり、防災ゲーム、炊き出しを支援

〇災害時を想定したものづくり、炊き出し等の活動実践を支援することで学びを深めた。



4 わくわく防災プロジェクト④ 10月

【土田市道アンダーパス・広見地区センター】(講師大前)
2010年7.15集中豪雨の被害場所の土田市道アンダーパス
付近をフィールドワーク、まとめ



○災害地図をもとにフィールドワークにより、実感を通して過去の災害を学ぶ。感想を交流。



5 わくわく防災プロジェクト⑤ 11月

【広見地区センター】(講師 大前)

アプリを使った防災ゲームの体験、防災士に期待される活動、マイタイムラインづくり

○防災ゲームアプリを体験し地区センター内、周囲の防災設備、防災士、災害への備えを学ぶ。



6 わくわく防災プロジェクト⑥ 12月 【広見地区センター】(講師 村岡治道 元岐阜大学特任准教授)

ワークショップを講師に依頼。大人の参加者を募集。地域の大人と一緒に備えの大切さを学ぶ。



○自分の地域を点検して地震に備えることについて、交流を通して学びを共有した。



7 わくわく防災プロジェクト⑦ 2月 【広見地区センター】（講師 可児夕子 可児写真館） 実施予定

ワークショップを講師に依頼。大人の参加者も募集。地域の大人と共に写真洗浄を通して、被災地のことを学ぶ。

○ボランティア活動を体験。被災地の現状を交流を通して学び、共有の予定。

・わくわく防災プロジェクト 1月は実施日に県知事選挙が入り、地区センターが使用できず、2月に延期。

8 他団体との連携

Do It Yourself（防災教育チャレンジプラン参加団体）と連携をもち、アプリを利用した防災マップ作りとゲーム体験を実施。

・今後、防災マップ作りをアプリを使い行う。その後、作成したゲームを交流体験する予定（来年度）。



9 情報発信

○可児市リーダー育成講座(11/10, 12/8) 40名
講師として登壇活動報告(60分)

○清流防災リーダー育成講座(11/10, 12/8) 100名
岐阜大学で行われる防災士育成講座で2回情報発信。

・11/10 おまけ講座(10分)で活動の様子を発信・

・12/8 育成講座で講師として登壇活動報告(15分)

○可児市 Meets フェスタ(12/1)

市民活動団体、企業、事業主(40余り)が出展、約500名の来場者。ブースを出展し、パネルと映像、体験で情報発信。

○Instagramでクラブの毎回の活動の様子を発信

○学校だよりで活動の様子を記載。

○教育長からの激励の言葉を映像動画

作成。「わくわく防災プロジェクト② 8月」でメッセージを伝えた。





プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・若手で防災教育に理解があり、防災知識を得ている人材に協力を仰いだ。 ・役割分担を明確にした。
2. 【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の行政や防災の会、NPO 団体と連携した。
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で動きやすい組織にした。
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者、会員募集を市内中学生に限定した。 ・会の参加者に一般のサポーターを募集し、協力を得た。
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・メールやラインを活用した。できる限り短時間で済ませるようにした。
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と連携し、地区センターを無料で使用した。
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u>	
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や県、市の防災講師の方に助言を求めた。 ・WEB サイトを利用した。
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や県、市の防災講師の方に助言を求めた。 ・WEB サイトを利用した。
10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員に助言をお願いした。 ・行政や県や市の防災講師の方に助言を求めた。さらに、他の方を紹介していただいたりした。
11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も足を運び、顔の見える関係づくりに取り組んだ。 ・行政や諸団体に支援していただいた。市のイベントにボランティアとして参加する形を取ったりした。
12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の参加の都合を聞き、土日の時間を確保した。また、負担にならない回数にした。
13. 【実行段階】 <u>活動経費をな</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政に団体の活動を認可してもらい、毎月の地区センタ



<u>べく抑える際の工夫</u>	<p>一の会議室使用料を減免。</p> <ul style="list-style-type: none">・防災安全課との連携により、必要な物品を提供してもらい、活動に取り組んだ。・会議等で使用する筆記用具を購入したものを再利用して使用した。・行政の担当者に会に参加してもらい、準備等で支援してもらった。
14.【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none">・中間報告会をきっかけに、他団体の活動とコラボして、共有し、実践した。
15.【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none">・若手の協力を得た。
16.【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none">・まとめプリントを用意した。
17.【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none">・学校だよりで、発信した。・毎回の活動をInstagramで発信した。・県と市の防災リーダー育成講座で、活動の様子を発信した。・防災講話を企画し、集まった人々へ活動について話したり、掲示物を作成したりして、知ってもらえるよう工夫した。・市のイベントにブース出展した。参加者に活動をアピールした。(館内ラジオ出演、掲示物)
18.【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u>	<ul style="list-style-type: none">・振り返りの場を設定した。



今後の活動予定・今後の展開	<p>今年度の活動予定は、2月に写真洗浄体験を講師を招いて実施を計画している。また、今年度の活動の振り返りとまとめを行う予定である。</p> <p>来年度も引き続き、活動を予定している。年度の始めに会員の募集を行い、活動を継続していく。実施内容は、今年度の活動を再検討しながら進める予定。行政、他団体と協力・支援体制を強化し活動を広げたい。</p>
その他（PRポイントなど）	<p>「未来の防災人材育成」へ向けて、中学校部活動地域化に伴い団体を設立し、活動できたことが、大きなポイントである。現在、市内の中学校部活動には「防災部」はない。それぞれの中学校単位で新しく「防災部」の部活動を立ち上げることは、ほぼ不可能である。今回の部活動地域化をチャンスと捉え、市として「防災クラブ」を立ち上げた。既存の防災士の会等の諸団体が中心ではなく、一中学校教員が、何もない0の状態から、行政や教育委員会、諸団体に協力を得ながら、会員を集め、活動を継続したことに大きな一歩があると自負している。また、これからのVUCAな時代を見通し、生徒や市内教職員、地域の方々に、失敗を恐れずに新しいことにチャレンジしていくことの大切さを自らの姿で示すこともできたと感じています。</p>



チャレンジプランを実践しての感想

チャレンジプランを実践しての感想・想い	<p>このチャレンジプランに挑戦したおかげで、支援をいただけ非常に心強く、邁進することができました。また、誇りと責任をもって取り組むことができた1年になりました。これまでも学校防災教育や地域での講師としての防災活動、自分自身の災害ボランティアなど行ってきましたが、私にとって新たなページを刻むことができた。チャレンジプランでの交流から得られた刺激や講師の方々からの心強い言葉をいただき、得ることも大変多く、本当に感謝しております。来年度は、このプランの支援を受けることができませんが、今年度の経験を生かし、着実に歩みが進められるよう精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
---------------------	---